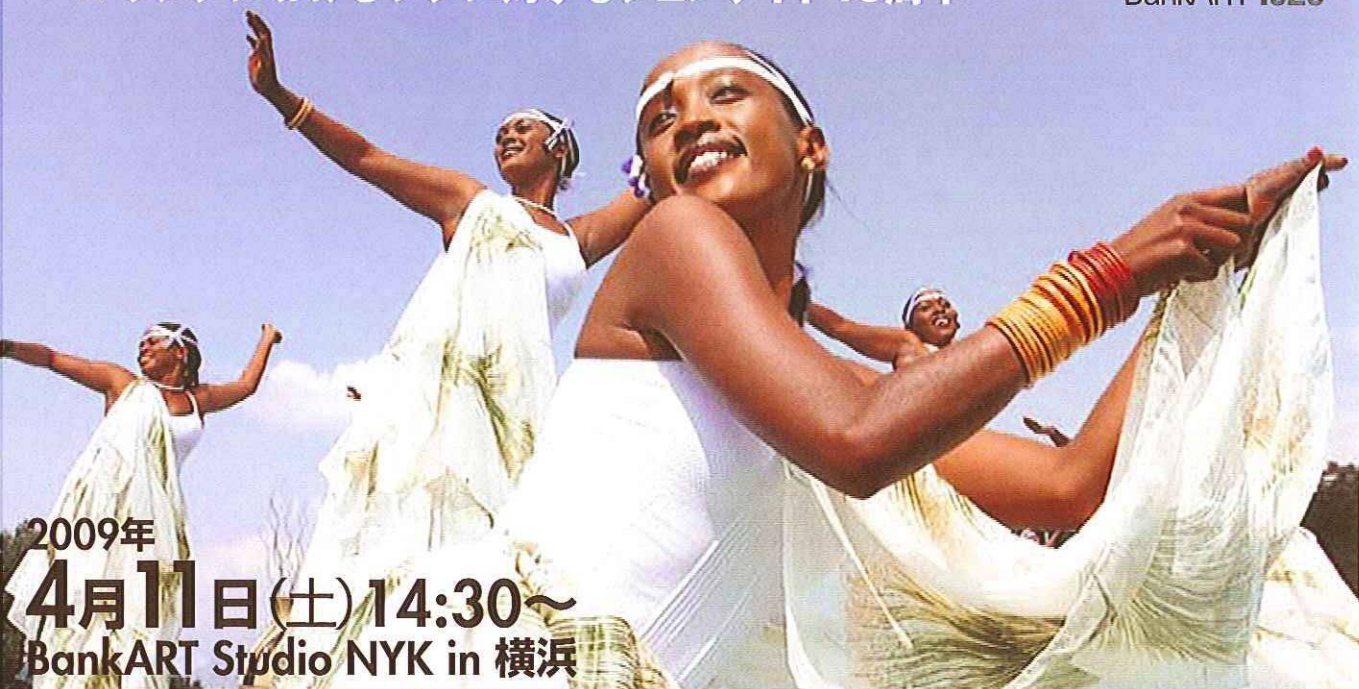


—思い起こし そして未来への希望へ—  
ルワンダにおけるツチに対するジェノサイド15周年

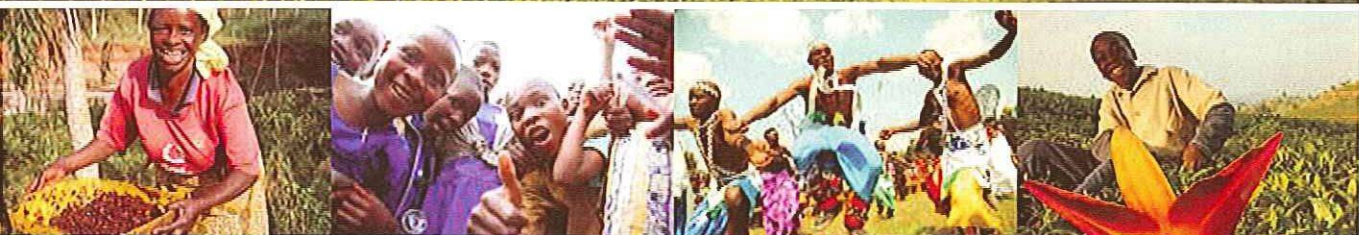
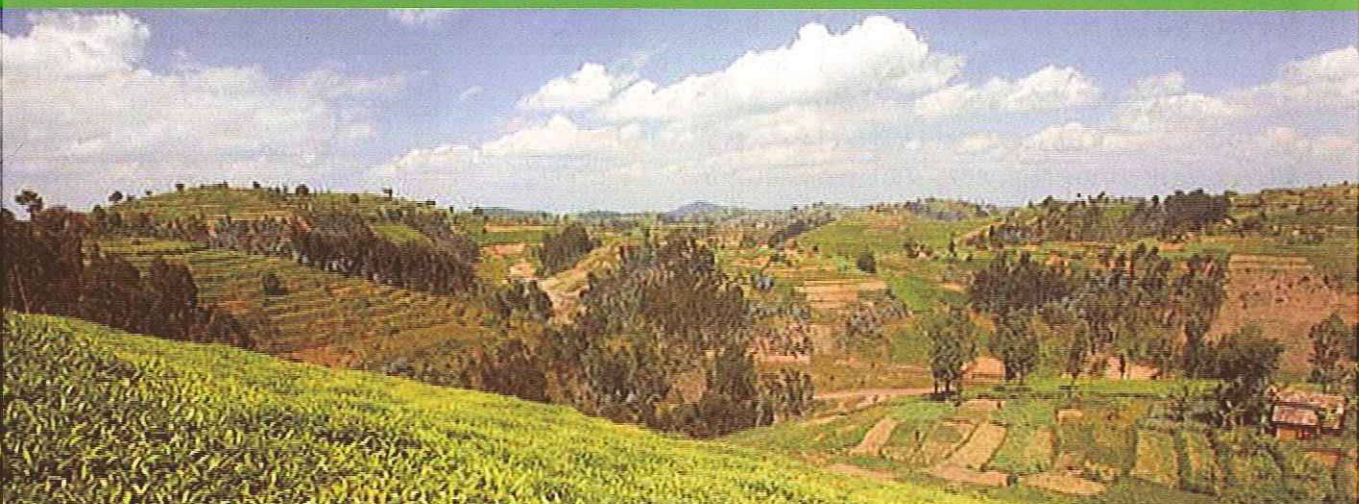
 CINEMA  
AFRICA  
BankART 1929



2009年  
4月11日(土) 14:30~  
BankART Studio NYK in 横浜

# RWANDA LOOK 2009

—アフリカ映画と講演で探る今日のルワンダ—



■主催 / 駐日ルワンダ共和国大使館  
■協力 / BankART1929、シネマアフリカ実行委員会  
■フィルム協力 / Velvet Film, HBO Enterprises, Rwanda Cinema Centre  
■会場 / BankART Studio NYK / NYKホール  
横浜みなとみらい線「馬車道駅」、6出口(万国橋口) 徒歩4分

■問い合わせ先  
駐日ルワンダ共和国大使館  
<http://www.rwandaembassy-japan.org/jp/>  
TEL 03-5752-4255 FAX 03-3703-0342  
[info@rwandaembassy-japan.org](mailto:info@rwandaembassy-japan.org)





# RWANDA LOOK 2009

—アフリカ映画と講演で探る今日のルワンダ—

100万人もの人々の生命を奪ったルワンダ・ジェノサイド  
深い悲しみの中からルワンダの人々は  
努力と英知で立ち上がった  
驚異的な経済発展を遂げ、  
いまや“アフリカで最も安全な国”となったルワンダ  
あれから15年、今改めて、映画で悲劇の全容を振り返り  
現在のルワンダへと至る知られざる歩みに迫る

2009年

4月11日(土)14:30~

BankART Studio NYK in 横浜

## ●映画紹介●

### ジェノサイド映画の決定版!

2005ベルリン映画祭金熊賞ノミネート作品

『四月の残像』(原題Sometimes in April)

(140分 フランス/アメリカ/ルワンダ ラウル・ベック監督 2005)

4月とは、虐殺が始まった記憶から拭い去れない月。フツの兄弟、オグスタンとオノレを軸にした1994年と2004年の二つの4月についての物語である。

兄オグスタンは軍人だがツチの妻を持つために窮地に追い込まれる。弟オノレはラジオで扇動放送を繰り返す一方、兄一家だけは救おうと手を尽くす。だが、いったん燃え上がった虐殺の炎は、オノレの予想をもはるかにこえて燃え広がっていった。悲劇に弄ばれた兄弟ドラマの合間に、ルワンダの民族間に憎しみが

育てられてきた歴史や、虐殺の背後にちらつく大国の影、国際社会の無関心、事後の国際法廷の矛盾など、虐殺を巡るあらゆる背景が描きこまれたラウル・ベック渾身の一作。



※上映はDVD/プロジェクターを用いて行われます。

## ●プログラム●

14:30 開場(スペシャルティコーヒーを味わいながらお待ち下さい)

15:00 メモリアル・レクチャー  
(エミール・ルワマシラボ駐日ルワンダ共和国大使)

15:30 映画『四月の残像』上映

17:50 休憩

18:00 Today's Rwanda  
写真や映像、展示により今日のルワンダを体験してください。

・上映作品『Journey Into Rwanda』  
(25分 ルワンダ エリック・カベラ監督 2008)

・上映後には、Q and A 形式にて大使がみなさまに、作品について、ルワンダについてご紹介いたします。

18:50 閉会

ご来場の皆様には、お持ち帰りいただけるルワンダ・スペシャルティコーヒーのお土産がございます。

19:00 レセプション(招待者のみ)



写真: 橋哲也(映画スチール写真以外すべて)

## ●会場アクセス●

BankART Studio NYK  
〒231-0002 横浜市中区海岸通3-9  
<http://www.bankart1929.com>  
TEL : 045-663-4677



入場料(ルワンダコーヒー付き) 一般800円、学生500円、高校生以下無料。※予約は駐日ルワンダ共和国大使館(03-5752-4255)まで